

# 全国で躍進続く広島の高校ボクシング



広島の高校ボクシング界が全国舞台で次々と好成績を残している。2013年の東京臨海から全国選抜、インターハイで毎回頂点に立ち、優勝回数は国内一位の7回を誇る。競技者の拡大を支えるNPO法人や、各校の連携による強化策が奏功している。

(藤田隼也)

崇徳の原田直樹(東)のNPO法人クロイ洋人が東京国体からビーで鍛えた。インターハイで4冠を、ターハイと国体に出場達成。14年の長崎国体した丸亀恭敬理事長では広島市工の黒田虎(51)が04年に設立し、之介(法大)が少年ライト級を制した。ことし3月の全国選抜ではライトフライ級の田村拓実(崇徳)とウエルター級の原田健太(芸芸)が優勝。異勢のジムの小学生から66歳までの男女87人が通ったが、7年前ごろから。現在も中学生



## NPOがジム各校はタッグ

父博之さん(右端)と練習する田村(右から2人目)らクロイのジム生

# 親子で汗世代超え刺激

丸亀理事長の勧めで、約20人が父親と先輩の指導を受け、7年前ごろから。現在も中学生

20年で例がない。社会人選手権を目指す村の父博之さん(45)は、高校ボクシング部が活躍で周囲も自の教え子で、バルセロ

中、特長は父親と一体「足りないところが、見がな。原田健太は、世代の活躍で周囲も自の教え子で、バルセロ

他校との合宿 広陵の復活も大きい。山本保監督(58)と環境の良さが立って続けの快挙につながっている」と強調。躍進は続きそうだ。

2013年	＜全国大会で優勝、準優勝した広島の高校生＞	東京国体少年選抜	ウエルター級優勝	原田直樹	崇徳(芸芸)
14年	東京国体インターハイ	ウエルター級優勝	原田直樹	崇徳(芸芸)	
15年	長崎国体少年選抜	ライトフライ級優勝	田村拓実	崇徳(芸芸)	
	全国高校選抜	ライトフライ級優勝	田村拓実	崇徳(芸芸)	

3月末は全国選抜出場者ら11人が沖縄遠征するなど、一丸となった強化策を進める。日本連盟の森正耕太郎副会長(77)は「広島はま」とりもよく、指導者と環境の良さが立って続けの快挙につながっている」と強調。躍進は続きそうだ。

に出場した妹尾コナ子(46)が昨年就任。数年前、1府台だった部員も18人に回復した。大半が未経験ながら、3月の全国選抜は8階級中6階級に出場。妹尾コナ子は吸収力があり、成長も早い。教えがいがあると力を込めた。

随時掲載します